





僕はあなたにワンと鳴く 第1話

まっすぐで  
綺麗な脚を  
掲げると

舐めたまえ

彼女は  
薄く笑つた

来栖  
瑠子



僕  
雪村  
悠が  
生徒会に入つたのも



先輩…！  
違うんです

発注書

なのに――

高価な備品だし  
僕は確かに  
何度も確認して…つ

一桁  
間違ってたなんて  
そんな事あるはずが  
ないんです！

生徒会室

先方に問い合わせたが  
既に取り返しの  
つかない段階まで  
製作してしまって  
いるそ�だよ

君が作成した発注書に  
誤りがあったのは事実だ

…しかし雪村

何らかの処分は  
覚悟しておいたほうが  
いいだろうな

私は  
生徒会長という立場から  
学園に事実を  
報告せねばならない

気の毒だが

…そんな…



停学…  
まさか退学?

責任を取つて  
賠償金とか…?

なにより…  
生徒会を辞めることが  
なるのは確実だ

来栖先輩の元から  
離れなくちゃ  
ならないなんて

まあ…  
失敗は誰にでも  
あるものだ

幸い  
この件について  
把握しているのは  
私だけだし…

内々に  
収めることも  
可能だろう

…つ







今日は  
少し汗ばむくらいの  
気温だつたからな

一日中ストッキングと  
革靴に包まれて  
足先もすっかり  
蒸れてしまつたよ

…先輩の  
味と匂いが…

ストッキングの  
触感と肌の  
柔らかさが…

脳に染みこんで  
くる…つ

それどころか  
その猛り！

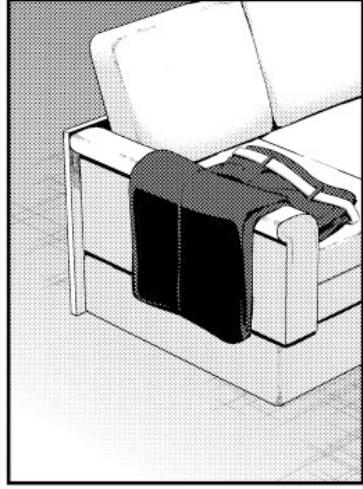
いや

どうした?  
そんな蕩けた  
顔をして









もつと厳しく  
躊躇ないと  
いけないようだ

お先輩の  
お尻ー！？

温かい！  
柔らかい！

ハハハ

嬉しい  
誤算だぞ

キミのコレ…  
間近で見ると  
なかなかに  
エグいな

全く…  
可愛い顔に  
似合わず  
凶悪なもの…

…もう？

いや…  
何でもないよ

ふふ…